

自己改革実践報告

【JAおうみ富士の今日までの取組み】



JAおうみ富士



自己改革の実現のために

組合員・利用者から期待される総合事業メリットの発揮を

はじめとして、JAグループが統一して掲げる

3つの基本目標

「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」

の実現に向けて、組織を挙げて取り組んでいます。

「自己改革」
邁進中！



JAおうみ富士のめざす姿

わたしたちは、自らの創意工夫による「自己改革」を実践し、
組合員や地域とともに歩む協同組合をめざします。

農

農家組合員の所得増大と農業生産の拡大
～農家組合員、担い手とともに～

くらし

総合事業による地域の活性化への貢献
～地域、利用者とともに～

組織・運営

自己改革を支える経営基盤の確立
～組合員、組合員組織とともに～

組合員の皆さまとともに

JAは、農業者・利用者を中心とした組合員が「力を合わせて」共通の願いをかなえるために組織した「協同組合」です。JAおうみ富士では、組合員・地域に必要とされるJAとなるために、自己改革に取り組んでいます。また、自己改革の実現には組合員・利用者の皆さまが、組合の事業のご利用や積極的に活動へご参加いただくことが必要です。

今回、当JAがこれまで行ってきた自己改革の実践状況をご報告します。ご理解のうえ今後、ますますのご利用・ご参加をお願いします。



**みんなが主役！
わたしたちの自己改革**

総合事業とは

JAは農業関連事業(営農指導・農産物販売・生産資材購買)だけでなく、組合員・利用者の皆さまから大切なお金をお預かりし、それを原資に貸出しを行う信用事業、「ひと・いえ・くるま」の総合保障を提供する共済事業、JAくらしの活動や介護事業など、くらし全般にわたる多くの事業から成り立つ『総合事業』を営んでいます。

また、JAの事業は、農業者だけではなく、地域の皆さまにとっても生活に欠かせない機能として非常に重要な役割を果たしています。

農 「農家組合員の所得増大」と「農業生産の拡大」の取組み報告

名称
項目

農業所得増大への取組み



内容

- ◆生産資材費の削減
- ◆マーケットインによる販路拡大と販売力の強化

行動
成果

1. 生産資材コスト低減のために、生産者が希望する低コスト資材の開発と普及に取り組みました。

①オリジナル肥料「楽だね15」(低コスト水稲一発肥料)により省力化・低コスト化を実施
(平成30年産水稲資材の供給実績:8,062本 約403ha 分)

②低コスト肥料(土づくり肥料)を選定し、担い手に試験供給

③全農銘柄集約を活用し肥料2品目の低価格提供を実現

(平成30年産水稲資材の供給実績:高度化成444 1,066本、NK化成C20 1,108本)

④資材費の削減を目的として、平成31年産の水稲栽培ごよみに、省力化・低コスト化した施肥設計を掲載

2. 育苗資材省力化・低コスト化のために、水稲の高密度播種苗の導入に向けて展示圃を設置し、試験栽培(10aあたり水稲育苗箱約7枚)に取り組みました。

3. 農家所得向上のため契約生産・販売の取組みとして、水稲多収性品種「やまだわら」の試験栽培および契約栽培小豆「丹波大納言小豆」の栽培を実施しました。

(平成30年度の丹波大納言小豆作付面積:332.3a)

4. 健康食品として注目されている地場産の「もち麦」を、衛生的な環境で精麦・包装するために、中主営農センター内に「もち麦加工施設」を設置し、平成30年4月から稼働を開始しました。

5. 「もち麦」の販売強化として、台湾への輸出、コープしがでの販売、米穀販売業者への販売促進に取り組みました。

6. 新たな加工品として、「もち麦茶」の開発に着手しました。



「楽だね15」袋デザイン



もち麦海外輸出出発式

名称
項目

地域農作物の生産拡大への取組み



内容

- ◆「農業塾」の開講により農業者を育成・支援
- ◆地域特産品の生産拡大に向けた取組み
- ◆「ハウス・畑バンク」の設置による遊休施設・農地を活用した生産振興の取組み

行動
成果

1. 新規出荷者および多様な農業者の育成・支援のために、「農業塾」を開講しました。
(平成30年度参加者 夏野菜コース:13名、秋冬野菜コース:9名)

2. 「モリヤマメロン」の新規栽培者育成・支援のために、
メロントレーニングハウスでメロン栽培の指導に取り
組みました。(通算:15名、内メロン部会加入者:10名)
3. 農家所得の向上を目的に、「冬メロン」の試作に取り
組みました。

4. 生産量を増加させ、有利な販売に繋げることを目的に、
「イチゴ」「キャベツ」の生産振興に取り組みました。

(平成30年度の管内キャベツ作付面積 約5.9ha)

5. 新規就農(定年帰農等)・規模拡大など、耕作者の支援
や遊休農地の解消を目的に、農地の「貸出しを希望する
農家」と「借入れを希望する農家」のマッチングを行う
「ハウス・畑バンク」を設立し運用しています。登録は無料
で、チラシ・広報誌・ホームページで募集しています。

(平成30年12月7日現在:貸出希望16件、借入希望8件(面積102a)、マッチング3件)



農業塾



メロントレーニングハウス

★ は自己改革の達成度合いを表しています。



名称
項目

安全・安心な農作物づくりの推進



内容

- ◆環境こだわり農作物の普及推進
- ◆農作物の自主検査による安全性検証の実施
- ◆GAP(農業生産工程管理)導入に係る相談機能の充実

行動
成果

1. 安全・安心な農作物の普及と生産拡大のために、環境こだわり栽培米「みずかがみ」の普及推進に取り組みました。(作付面積:約150ha)
2. 農作物の安全性を確認するために、生産者の自主検査によりファーマーズ・マーケット出荷物の抽出による残留農薬調査に取り組みました。
3. 米のカドミウム吸収抑制対策として、農談会を通じて水管理について呼びかけ、JAの自主検査によるカドミウム含有量調査を行い、米の安全性を確認しました。
4. 農産物の安全を確保し、より良い農業経営を実現するための取組みとして、農薬の基礎的な研修とGAPの研修を開催しました。あわせて営農組合のアジアGAP取得に至りました。



GAPの研修会

※GAP=農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組みのこと

名称
項目

出向く営農指導体制の活動を強化



内容

- ◆営農経済渉外担当者「TAC」による現場へ出向く相談機能の充実
- ◆栽培試験実施による新技術、特産品開発

行動
成果

1. 農業者のニーズに対応して営農指導・経営相談等を実施することを目的に、地域農業の担い手農家に出向く4名の「TAC」による農家への訪問活動で情報提供等の活動に取り組みました。
2. 新たな技術や特産品を開発するために、「TAC」が中心となり、栽培ほ場の選定や指導等に取り組みました。活動が認められて平成30年度「JAグループTACパワーアップ大会」で全国表彰を受けました。



JAグループTACパワーアップ大会

内容

- ◆集落営農の法人化支援
- ◆担い手経営体の複合経営支援による経営基盤の強化
- ◆担い手農家への支援

行動
成果

1. 地域農業の維持・継続を目的に集落営農の法人化に向け、JA滋賀担い手サポートセンターと連携し支援に取り組みました。
2. 複合経営支援による担い手経営体の経営基盤強化の取組みとして、水田野菜(キャベツ)の栽培を推進しました。
(平成30年度の管内キャベツ作付:約5.9ha)
3. 地域農業の維持・発展と法人の独立支援・営農組合のモデルづくりを目指すために、「農林水産業みらいプロジェクト」に係る営農指導と施設設備の支援に取り組みました。
4. 全農全国本部の「みのりみのるプロジェクト」が発行する生産者の想いや地域の魅力を掘り起こして伝えるためのフリーペーパー「AGRIFUTURE」の取材・製作を通じ、若手担い手農家とのつながり強化に取り組みました。
5. 担い手農家支援のために、JAおうみ富士青壮年会「絆の会」や「野洲市青年農業者クラブ」に協力し、新規就農支援やイベントのサポートに取り組みました。
(おいで野洲ひまわり迷路・会員交流イベント・パラリンピック選手支援・SOSこどもホーム等)



「近江のキャベツ」の取組み状況発表



おいで野洲ひまわり迷路



くらし 総合事業による地域の活性化への貢献の取組み報告

名称
項目

農業と地域・利用者をつなぐ金融サービスの提供 ★★★★★

内容

- ◆農業振興に結びつく商品・企画の展開
- ◆「農業・農業者応援プラン」の提供
- ◆JAバンク農業金融プランナーによる対応力強化

行動
成果

1. 「農業振興の仲間づくり」の取組みとして「JAファーマーズ・マーケット利用券付定期貯金(HarBest)」の募集を行い、789件 8億2,643万円(交付枚数4,116枚)の取扱実績で好評のうちに終了しました。
2. 農業経営の支援を充実するために、「農業資金応援キャンペーン」を実施し、農業資金のサポートに取り組みました。(平成30年11月末現在:32件123,188千円の融資実行)
3. 新規就農者のサポートのために、日本政策金融公庫資金の相談支援および融資支援に取り組みました。(平成30年11月末現在:3件15,390千円の融資実行)
4. 農業融資の対応力強化のために、「JAバンク農業金融プランナー」の資格取得者の増加を図りました。(平成30年11月末現在:資格取得者61名)

名称
項目

リスクに対する保障の提案と絆づくり ★★★★★

内容

- ◆3Q訪問活動による「あんしんチェック」の実施
- ◆次世代層への接点拡大による絆づくり

行動
成果

1. 「安心」と「満足」を提供するために、訪問活動による「あんしんチェック」とニーズにあった「ひと・いえ・くるま」の保障プランの提案に取り組みました。
2. 出産・子育て中の皆さまを応援する取組みとして「こどもくらぶ」の会員募集に取り組みました。
3. 次世代層への接点拡大の活動として「野菜だいすき料理教室」を開催し、地元の野菜を使ったおいしい野菜料理について学びました。



野菜だいすき料理教室

- ◆地域への安全・安心な農作物の提供と食農教育の取組み
- ◆ファーマーズ・マーケットを中心としたイベント・地産地消の取組み

1. 地産地消の拡大と食育教育の推進により、農業を身近なものにとらえ、地元特産品に対する理解を深めてもらうために、守山市・野洲市の学校給食へ安全・安心な農作物を提供しました。

また、両市の小学校への出前授業、田植え・稲刈り等農業体験学習を実施しました。



稲刈り体験学習

2. 農業や食、自然環境、それらに関わる金融や経済などに対する子どもたちの理解を育み、農業ファンの拡大や地域の発展に寄与することを目的に、守山市・野洲市の両教育委員会の教育長を訪問し、小学5年生を対象にした食農教育の補助教材「農業とわたしたちの暮らし」約1,800冊を贈呈しました。

3. 農業への理解を深めることと地産地消の取組みとして、ファーマーズ・マーケット“おうみんち”によるSNS (Facebook)からの情報発信と、1日農業者体験「青空フィットネスクラブ」を実施しました。



青空フィットネスクラブ

4. 総合ポイントシステム(おうみんカード)の普及により、組合員・利用者へのサービスの充実に取り組みました。

(平成30年11月末現在:カード発行枚数22,097枚)

5. 地域とともに食と農への感謝と収穫の喜びをわかちあうために、“おうみんち”で「農業まつり2018」を開催しました。(来場者数:約6,000名)



農業まつり 2018 (競りを楽しむ来場者)

- ◆「1支店・1事業所・1協同活動」によるふれあい活動の展開
- ◆地域のイベントへの参加

1. JAが地域によりそう身近な存在として地域貢献するために、各支店・事業所において地域とのふれあい活動を計画し取り組んでいます。

①地元小学校・幼稚園・保育園や地域への農業体験活動の実施(守山営農センター・野洲営農センター・中主营農センター・速野支店・中洲支店・河西支店・守山支店・祇王支店・篠原支店・三上支店・中主支店)

②「支店感謝祭」の実施(赤野井支店・速野支店・中洲支店・河西支店・守山支店・野洲支店・祇王支店・篠原支店・三上支店・中主支店)

③ミニサロン(健康学習会・レクリエーション等)の実施(吉身支店)

④交通安全啓発活動の実施(河西支店・中洲支店・中主支店)

⑤「支店合同グラウンド・ゴルフ大会」の実施(吉身支店・河西支店・守山支店)

⑥地元で活動される手話サークルとJERRYBEANSとのコラボによる「人権コンサート&アール・ブリュット展」の開催(野洲支店・祇王支店・篠原支店・三上支店・中主支店) など



JERRYBEANS人権コンサート

2. 地域との連携や交流および地域活性化のための取り組みとして、地域のイベントへ積極的に参加しています。

①「やすまる広場 2018」に参加(野洲営農センター・野洲支店・祇王支店・篠原支店・三上支店)

②「オクトーバーフェストやす〜JAZZ UP!〜」に出店(野洲支店・祇王支店・篠原支店・三上支店・中主支店)

③守山市青少年育成会議主催の「あいさつ一声運動」に参加(河西支店)

④「玉津学区民大運動会」に参加(赤野井支店)

⑤「学区民のつどい」に参加(赤野井支店・河西支店・守山支店)

⑥「コミセンやすまつり」に参加(野洲支店)

⑦「コミセンひょうず収穫祭」に参加(中主营農センター)

⑧「一里塚まつり」に参加(守山支店)

⑨「下之郷遺跡まつり」に参加(吉身支店)

⑩「錦織寺フェスタ」に参加(中主营農センター・中主支店・おうみんち) など



「オクトーバーフェストやす」に出店

内容

地域組合員が主体となった地域活動活性化への支援



名称
項目

◆「支店ふれあい協議会」による地域と一体となった事業活動の実施

行動
成果

地域の組合員・組織等の意見が反映された活動を実現するために、「ふれあい協議会」の活動を支援しています。

①速野支店ふれあい協議会の活動

- i. 地元親子連れへの農業体験「さつまいも植え体験」を実施
- ii. 農業体験「さつまいも収穫体験」を開催

②野洲支店ふれあい協議会の活動

- i. 「ふれあい夏祭り」の開催
- ii. 「オクトーバーフェストやす」・「人権コンサート&アール・ブリュット展」に協力

③中主支店ふれあい協議会の活動

- i. 「ふれあい夏祭り」の開催
- ii. 「中主ふれあい文化祭」の開催

④赤野井支店ふれあい協議会の活動

- i. 「赤野井支店オープン1周年記念祭」を開催
- ii. 「赤野井支店ふれあい大感謝祭」を開催



速野支店ふれあい協議会 いも植え



野洲支店ふれあい協議会 夏祭り

名称
項目

健康で文化的な暮らしを支える活動の取組み



内容

- ◆組合員・利用者が集える場を提供
- ◆魅力ある組織づくりのための女性部組織の支援

行動
成果

1. 健康(スポーツ・料理等)や文化活動(セミナー・学習会等)を通じ、JA に集う場を提供し、「絆づくり」に取り組みました。(おやこひろば、てくてく健康クラブ、レディーススクールきらめきⅢ、文化セミナーほほえみ、男性料理教室、Men's カレッジ、まごころサロン等)
2. 魅力ある組織づくりのために、女性部組織の活動支援に取り組みました。(カルチャー教室、女性部レクリエーションフェスタ、女性部フェスティバル、JA女性のつどい等)

組織・運営 自己改革を支える経営基盤の確立の取り組み報告

名称
項目

自己改革を支える経営基盤強化



内容

- ◆組合員加入促進運動の展開
- ◆自己改革の「見える化」の実践と組合員・利用者への情報発信
- ◆新たな組織再編(合併)に向けた研究会による協議・検討

行動
成果

1. 女性や若年層の正組合員加入と地域住民の准組合員加入の促進に取り組み、新たな仲間づくりに取り組みました。(平成30年11月末現在:組合員加入運動実績151名)
2. 総代会において「自己改革実践報告」を別冊資料で説明し、組合員全戸訪問で配付し、自己改革の「見える化」に取り組みました。
3. 管内農業および協同活動の情報を発信するために、日本農業新聞の購読拡大に取り組みました。通常総代会では過去の記事の掲示や「支店ふれあい協議会」の記事が掲載された日本農業新聞の配布を行いました。
4. 大津・湖南・高島地区JAの合併に向け研究を深め、研究会、各専門部会において協議・検討に取り組んでいます。



研究・検討を進めているエリア

名称
項目

「人づくり」と「職場づくり」による経営基盤の拡充



内容

- ◆組合員・利用者から選ばれるJAとなるため、CS改善プログラムの実践
- ◆不祥事防止に向けた役職員教育の実践

行動
成果

1. 「自ら考え、自ら動いて、改善を形にする」をキャッチフレーズに、全支店・事業所で「CS改善プログラム」を実践し、顧客満足度の向上に取り組んでいます。
2. 職員の意識向上・統一を目的にコンプライアンス研修を開催しました。
3. 毎月26日を「コンプライアンスの日」と定め、コンプライアンス意識の向上に取り組んでいます。
4. 上司から部下へのコーチングによるサポートを月1回実施し、風通しの良い職場づくりに取り組んでいます。



職員コンプライアンス研修